

多文化共生事例集作成ワーキンググループ（第4回）  
議事概要

（1）山脇座長より開会挨拶

（2）事務局より資料について説明

○ 資料1（事例集案）

- 事例集は、「はじめに」、「事例集概要」、「事例集本体」、「コラム」、「おわりに」、「参考資料」により構成。「事例集本体」と「コラム」の中身については、事前に共有していることもあり説明を省略。それ以外の主な記載事項は以下のとおり。

（はじめに）

- － 在留外国人のここ10年間の統計的推移
- － 政府・地方自治体の取組における多文化共生の位置付け などの背景情報（事例集概要）
- － 事例集の項目・地方ブロック・実施主体ごとの掲載事例数
- － 項目ごとの掲載事例の概要 など

（事例集本体）

- － 項目ごとに色分け

（おわりに）

- － 事例を横断的に見たときの共通点（キーワード）という観点から掲載事例を総括
- － 国内・海外の地方自治体等から見た多文化共生の取組の今後の方向性

（参考資料）

- － ワーキンググループの開催状況・委員名簿
- － キーワード別事例一覧
- － 感謝の意を込めて、応募団体の一覧

○ 資料2（配布先案）

- 冊子として印刷・配布するほか、PDF化して総務省HPでも掲載
- ワーキンググループの構成員、事例の掲載団体・推薦団体、総務省関係団体、地方公共団体、地域国際化協会等、多文化共生の研究者等に配布予定

### (3) 意見交換

#### (タイトル)

- － タイトルが「多文化共生事例集2017」だと、白書等の官公庁刊行物と同様、今後も毎年続いていくと誤解を与えてしまう。「地域における多文化共生推進プラン」策定から10年であることを伝えたいのであれば、「2017」は削除し、副題を「プランから10年 共に拓く地域の未来」にしてはどうか

#### (はじめに又は事例集概要)

- － 事例集本体でも言及があるので、訪日外国人の統計的推移や在留外国人の高齢化の状況についても記載すべき

#### (事例集本体)

- － 各事例の写真にキャプションが入っているものと入っていないものがある。基本的には全ての写真にキャプションを入れるべき

#### (コラム)

- － 在住外国人の方々が新しい視点で地域の魅力を世界に発信する例として、JETプログラムの動画コンテストに関するコラムを追加できないか

#### (おわりに)

- － 海外の取組について、欧州のインターカルチュラルシティ、北米のウェルカミング・シティーズ・アンド・カウンティーズに加えて、韓国の取組も記載すべき
- － 「おわりに」の最後で、本事例集の活用の促進、一般財団法人自治体国際化協会の今後の取組（多文化共生ツールに関する情報を集約・共有化する基盤整備）についても触れるべき

#### (デザイン)

- － 事例集本文の項目ごとの色分けは、寒色と暖色を交互にした方が見やすい。また、項目と色との対応関係をどこかで明記すべき

#### (本事例集の周知)

- － 本事例集の周知について、来年度、総務省や一般財団法人自治体国際化協会とで予定されていることはあるか。また、報道発表は行うのか。  
⇒ (事務局回答) 5月と6月に総務省と一般財団法人自治体国際化協会とで地域国際化協会のブロック会議を開催する。それを皮切りに色々な機会を通じて普及に努めてまいりたい。報道発表は3月に行う予定

### (4) 各構成員より挨拶

以上